

令和6年度 文京区立指ヶ谷小学校 学校経営方針

具体的方策 1

「質の高い学級集団」

- ①「どの子どもにとって居心地のよい空間」「どの子ども疎外されない空間」を作ることを全校目標として、教師が**児童の居場所作り**を行い、学びを保証できる環境作りに努力します。そのために、違いを認めたり、互いのよさを認め合えたりする人間関係を築いていきます。さらに、教職員が明るい挨拶、はっきりとした返事、適切な言葉遣いを率先垂範するなど同一の指導方針のもとに指導の徹底を図ります。
- ②人権尊重教育推進校の研究成果を生かし、人権意識を向上させ、自他ともに大切にできる児童の育成に努めます。
- ③体罰や不適切な指導を排除し、児童を人として尊重する指導を行います。児童の困りごとには、真摯に向き合い、児童の意思を確認して適切に支援します。
- ④年2回のQUテスト等も活用し、いじめ「ゼロ」に努めます。教職員は情報を共有化し、未然防止、早期発見・早期対応に努めます。また、児童の問題行動等の連絡を迅速かつ確実にいき、家庭の理解と協力のもとに指導を進めます。さらに、SCやSSW等と連携し、きめ細やかな指導を行います。
- ⑤人と関わる楽しさ、集団でやり遂げる達成感を味わわせることを最重点に、学校行事に取り組みます。また、異年齢集団における関わりの中で、交渉したり、自分たちで考え、決めたりする活動を体験させることで、社会性や連帯感を培い、よりよい関係を築こうとする意欲を育てます。
- ⑥「子どもの権利条約」の意見表明権を大切に、発達の段階に応じた児童の意見を取り入れます。

教育目標

よい社会を形成する人間をめざして **心豊かで輝く個性をもつ** 子供を育てる

- ◎考える子……………自分でしっかり考えて、**学び方を決められる子**を育てる
- 実行する子……………**ゴールを考へて**、最後まであきらめずに取り組む子を育てる
- じょうぶな子……………何事にも意欲がもてる、心身ともに健康な子を育てる
- 思いやりのある子……………自分も他人も大切に考え、**協力し合える子**を育てる



目指す学校像 **「とも(共・友)に学び お互いを大切にする関わりを築く学校」**

本校の教育目標を達成するために、コミュニケーション能力を高め、よりよい人間関係を築くことができる教育を目指します。**児童が様々な人と出会い、関わり方**を学ぶことで人間関係力の向上を図る教育ができるよう努力します。

具体的な学校像

1. 児童が自分らしく活動できる学校
2. 教職員が一人一人の児童のよさを認め、伸ばす学校
3. 保護者・地域が安心感と期待感を抱く学校

目指す学校像を実現させるための基本方針

1. 児童が「自分らしく」あるために
一人一人が違いを認め、互いの存在を認め合える環境を整えます。ここで重要なことは、**一人一人の児童に「自分の居場所がある」と感じさせる**ことであり、そのためには、教師が自分の言動・行動を見つめ直し、児童が安心感をもって過ごせるよう配慮し、自分の思いを表明できる場を整えていきます。
2. 「児童のよさを認め、伸ばす」ために
一人一人の児童をよく見つめ、寄り添い、共感的に理解します。また、児童に親切な教師を目指し、**どの子どもにもわかりやすい対応**を心掛け、「わからないこと」等を適切に支援します。
3. 「保護者や地域が安心感や期待を抱く」ために=**パートナーシップの構築**
児童の成長を実感させること、連携を重視し、信頼され、理解し合い、協力し合う体制を整えます。

具体的方策 3

「児童のよさを認め、伸ばす教職員の育成」

- ①教職員が互いを尊重し、認め合い、目標を共有し、全児童を全教職員で育てます。
- ②グループOJTを活用した校内研究を実施し、若手教員を全校体制で育成します。
- ③常識ある社会人として、信用失墜行為に留意し、服務事故ゼロを維持します。
- ④組織を常に見直し、職層に応じた意識を高め、教育効果を高めるとともにプロジェクト方式を取り入れた運営も行い意欲を高めます。
- ⑤業務内容を見直したり、効率化を推進したりして、「働き方改革」を推進し、働きがいをもって働けることも重視していきます。

具体的方策 4

「命と安全を守り健やかに育成する」

- ①緊急事態発生時に対する体制を整え、施設の安全点検を着実にいき、安全管理を徹底します。
- ②様々な想定避難訓練、多様な機関と連携したセーフティ教室や不審者対応訓練、薬物乱用防止教室等、児童の安全を確保する教育を確実にいき、**自分で身を守れる力**を高めます。
- ③問題行動やいじめ、児童虐待等の未然防止や適切な対応のために、教員間の情報交換を進めます。情報共有による共通理解・共通指導を実践します。
- ④特別支援教育・いじめ防止については、校内組織の対応を充実させ、支援体制を構築していきます。
- ⑤110周年に向け、発達の段階に応じた愛校心を育みます。

具体的方策 2

「授業の充実」

- ①児童理解力を深め、全児童が各々の能力を発揮できる授業を目指し、教師の授業力を高めます。
- ②「学習スタンダード」に基づく共通実践により、学習習慣の確立を目指します。また、「自分で考える時間」と「みんなで交流して考える時間」を取り入れ、学校でしか体験できない授業を工夫し、**自分で学び方を考えられる児童**を育てます。
- ③学力調査等の分析に基づいて課題を明確にした「授業改善推進プラン」を作成し、定期的に見直しを図ります。
- ④計画的・自主的に学べるよう学習予定表を作成し、学習習慣の定着を図ります。また、朝学習の読書や1人1台端末のドリル等を活用し、基礎学力の定着に努めます。
- ⑤文京区教育研究協力校の成果と課題を生かし、引き続き、1人1台端末の活用を推進し、どの教員も同じように指導ができるICT教育を目指します。

具体的方策 5

「保護者・地域との連携を深める」

- ①保護者・地域に対する接遇(笑顔・挨拶・言葉づかい)に努めます。
- ②保護者の声に真摯に耳を傾け、率直な声を受け止めます。途中経過を報告する等連絡を密にし、信頼を得られるよう努力します。さらに、4月に個人面談を実施し、児童の情報を早期に共有し、協力体制を強固にします。
- ③学校ホームページ、お便り、児童作品の掲示等の随時更新を行い、学校の取組にご理解が得られるように努めます。
- ④さすがや応援団と密に連携したり、PTAや地域の様々な行事等に教職員も参加を心がけ、連携を深める努力をして、地域愛・郷土愛を育みます。
- ⑤学校運営連絡協議会を年3回開催します。学校評価アンケートを実施し、考えや期待を受け止め、常によりよい学校づくりを目指し、開かれた学校づくりに努めます。